仕様書

1 委託業務名 産業技術学院在職者訓練（生成 AI 関係）実施業務

2 目的

在職者訓練の実施を通じた県内企業の雇用労働者の生成 AI リテラシー向上及び生成 AI 活用促進により、業務効率化による生産性向上・競争力強化を実現する（事業者支援事業）。

3 委託業務内容

・佐賀県立産業技術学院（以下、「学院」と記載）が主催する在職者訓練（事業者支援事業）の1コースとして、生成 AI に関する講義及び演習を実施する。

【訓練カリキュラムの要件】

- 訓練項目は前記目的（生成 AI に関するリテラシー向上及び生成 AI の活用促進）に適合したものであること。
- 本訓練は生成 AI に関する専門知識を持たない者を訓練生として想定しているため、それを踏まえた水準（入門・基礎レベル）とすること。
- 訓練項目の構成等において、訓練生が理解し易いよう配慮し、訓練効果を高めること。
- 最終的に訓練生が所属企業において訓練で習得した内容を活かすことができるよう、訓練カリキュラムを工夫すること。

※参考として訓練カリキュラムの例を別添している。

- ・受託者と学院とが適時に連絡をとることが可能な体制を設けること。
- ・訓練完了後、実績報告書（様式任意）を提出すること。

4 実施訓練の目標到達点

訓練参加者が生成 AI の基本的な知識（生成 AI の本質、主な生成 AI の種類・特徴、生成 AI の活用方法と活用に伴うリスク）を習得し、所属企業における生成 AI の活用を促進していける人材となること。

5 訓練対象者及び定員

- ・訓練対象者は県内企業の従業員であり、佐賀県立産業技術学院が募集を行い決定する。
- ・定員：25名

6 訓練期間

- ・令和7年10月下旬～12月に実施
- ・平日午後の1日3時間（休憩時間別）、隔週で4回実施（総訓練時間12時間）
- ※例：令和7年11/4、11/18、12/2、12/9の各13時～16時10分（休憩時間含む）等

7 訓練場所・方法

- ・希望者はオンライン参加可能とすること。また、その環境構築は受託者が行うこと。
- ・実地受講者の会場については以下の①②いずれかによること（使用料等は受託者負担）。

- ① 学院仮押さえの会議室（佐賀市民活動プラザ 4F 大会議室、無線・有線 LAN 使用可）※
※この場合、訓練実施日程が火曜日午後に限られるので留意すること。
 - ② 受託者が手配した会議室等（佐賀市又はその近隣市町に立地の施設に限る。受託者が占有する施設の利用可。）
- ・ 訓練生が演習で使用する端末は、原則として訓練生各々が用意することとする。

8 留意事項

- ・ 原則として、再委託による実施は不可とする。
- ・ 原則として、必要物品（オンライン形式によるネットワーク環境等を含む）は受託者が準備すること。
- ・ 使用教材・ソフトウェア等について、
 - ア 市販されていない教材を使用する際は、著作権に係る諸手続きを完結していること。
 - イ 訓練で使用するソフトウェアについては、必要なライセンスの許諾を受けていること。
 - ウ 教材及びソフトウェアの使用料金等が発生する場合、受託者が負担すること。

以上

「今からはじめる効率化」生成 AI の基礎知識&活用術 (仮)

< 1 日目 : 実習時間 180 分 >

【第 1 回】生成 AI の活用に向けて (基礎理解とリスク把握)

(生成 AI とは何なのか、何かできるのか、といった基礎知識を習得するとともに、生成 AI を活用する上で留意すべきリスクを学ぶ)

○生成 AI の基礎 (45 分)

- ・生成 AI とは何か？
- ・生成 AI ができること (テキスト・画像・コード生成 AI の概要)

○生成 AI の活用事例とその影響 (45 分)

- ・事業活動の様々な局面における生成 AI の活用事例の紹介
- ・生成 AI が活用され始めたことによる社会的インパクト

< 休憩 10 分 >

○生成 AI におけるリスクと倫理 (50 分)

- ・生成 AI を事業利用する際に把握しておくべきリスク
(情報漏洩、誤情報、知的財産権侵害、バイアス、関連法令違反 等)
- ・生成 AI を事業利用する際に保持すべき倫理観・姿勢
(透明性(AI 利用の明示)、説明責任、プライバシーの尊重 等)

○次回研修に向けて (40 分)

- ・次回から実践活用の内容が加わることの案内
- ・本日の訓練を踏まえて実際に生成 AI を使用・体験
(合わせて質疑応答)

< 2 日目 : 実習時間 180 分 >

【第 2 回】生成 AI を使ってみよう (I)

(主な生成 AI ツールの概要や生成 AI を使用するための基本的知識を学び、演習で実際に使用してみる)

○主な生成 AI ツールの紹介 (70 分)

- ・ ツール選びの留意点
- ・ テキスト生成系 (ChatGPT、Google Gemini 等)
- ・ 画像生成系 (Adobe Firefly、Bing image Creator 等)
- ・ 業務支援・補助系 (Microsoft Copilot 等)

○生成 AI との「対話のコツ」プロンプト設計 (20 分)

- ・ プロンプト設計の基礎知識
- ・ プロンプト実例解説

< 休憩 10 分 >

○テキスト生成プロンプト実習 (60 分) ※演習内容は例

- ・ 演習 1 : 社内向け通知文の生成
- ・ 演習 2 : 製品紹介文の生成

○次回研修に向けて(30 分)

- ・ 次回は画像生成プロンプト実習、プロンプト連携実習を行うことの案内
- ・ それぞれの概要を説明の上、各自事由に生成 AI で試行
(合わせて質疑応答)

< 3 日目 : 実習時間 180 分 >

【第 3 回】生成 AI を使ってみよう (II)

(前回に続き、生成 AI の使用法の幅を広げた演習を行う)

○テキスト以外の生成 (30 分)

- ・生成 AI の活躍領域 (画像、動画、音楽、データ視覚化、コード)
- ・実例紹介

○画像生成プロンプト実習 (60 分) ※演習内容は例

- ・演習 1 : 商品広告用ビジュアルの生成
- ・演習 2 : ブランドロゴのデザイン

<休憩 10 分>

○プロンプト実習応用編 (複合プロンプト) (60 分) ※演習内容は例

- ・演習 1 : 商品紹介ページの作成 (文章生成&画像生成)
- ・演習 2 : 競合分析レポートの作成 (文章生成&データ分析・グラフ作成)

○次回研修に向けて (30 分)

- ・次回は各所属企業での実際の活用を想定した演習を行う事の案内
- ・各自の活用事例・活用イメージの共有
- ・質疑応答

< 4 日目 : 実習時間 180 分 >

【第 4 回】実務への活用、今後の展望

(生成 AI を実務に活用するためのワークショップを行い、各自の今後の活動につなげる)

○オリエンテーション・これまでの振り返り (30 分)

- ・この訓練の目的とこれまでの訓練内容の確認
- ・訓練参加者それぞれの生成 AI に対する期待・思いの共有

○実務活用ワークショップ 前半 (60 分)

- ・自社での生成 AI 活用シナリオの策定
- ・シナリオの発表、講評

<休憩 10 分>

○実務活用ワークショップ 後半 (60 分)

- ・生成 AI を使用し、前半で作成したシナリオの自社向けプレゼンテーション作成
- ・プレゼンテーションの発表、講評

○総まとめ・クロージング (30 分)

- ・生成 AI についての今後の展望
- ・生成 AI 活用のステップアップ、継続学修
- ・質疑応答